

# 新たな視点や発想による、取り組みの進化をめざす

安全運転普及本部 事務局長 吉田 宏樹

## 重点課題

今年度は3ヶ年計画の2年目にあたり、昨年度に引き続き「先進性・独自性のソフト開発による、戦略的な普及活動への転換」という方針のもと、以下の3つの重点課題に取り組んでまいりました。

1. 教育ソフトウェアの開発と導入
2. 普及活動の変革と進化
3. 海外における 二輪事故低減の実現

### 1 教育ソフトウェアの開発と導入

#### 「高齢歩行者への新たな教育プログラムの開発」

交通事故死者数に占める高齢者(65歳以上)の割合は2010年に初めて50%を越え、昨年は53.3%となりました。これを状態別にみると、歩行中が半数近く(48.5%)となっており、まずは高齢歩行者の事故を減らすことが全体の死者数低減につながると考えました。そこで、Hondaは高齢歩行者の事故低減に寄与するための新たな教育プログラム(P4～5参照)を開発し、現在、その普及を進めています。このプログラムは、道路横断中の事故が多いことから、例えば映像を使って道路横断を疑似体験できる内容を取り入れるなど、高齢者に意識と行動のミスマッチを気づいてもらえる構成と内容になっています。

開発にあたっては、現場で指導にあたっている交通指導員の皆様からのご意見をいただき、現場で使いやすい、高齢者に説得性のあるものとして検討を重ねました。改めましてご協力いただきました交通指導員の皆様に厚く御礼を申し上げます。

また現在、幼児・児童向けの教育プログラムの開発にも着手しています。こちらも高齢歩行者と同様に、現場の交通指導員の皆様からのご意見をいただき、Hondaらしい教育プログラムの完成をめざしています。

#### 「SAFETY MAPの活用領域の拡大に向けて」

SAFETY MAPは地域住民の皆様をはじめ、小・中学校や企業などの団体が地域の安全活動に活用できることを目的としたソーシャルマップです。私どもは、SAFETY MAPの情報をもとにした道路環境の改善提案によって1件でも事故を減らすための取り組みを進めています。福井県の交通安全推進連絡協議会では各市町にSAFETY MAPの活用を促進し、ハードとソフトの両面での安全対策に向けた取り組みを開始したところです。また、SAFETY MAPの新たな活用領域の拡大をめざした調査研究も有識者と進めています。

### 2 普及活動の変革と進化

#### 「お身体の不自由な方々を対象にした交通安全の取り組み」

昨年に引き続き、高次脳機能障がいの方がクルマの運転を通して社会復帰されることへの支援として、「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト」や「自操安全運転プログラム」の活用拡大に向けて取り組んでおります。私どものソフトを導入していただいている病院が増えたことで、こうした病院同士が連携し、共通の課題解決に取り組むケースも生まれてきています。具体的には、四国4県の病院が連携し、患者様のリハビリのスタートから運転復帰までのプロセスを構築するためにデータ収集やその解析を進め、評価方法や判断基準づくりをめざしています。私どもが、病院間の連携活動をサポートすることで点から線、そして面への展開をめざし、地域モデルの確立を進めてまいります。

一方「自操安全運転プログラム」をもっと身近な場所で訓練できるように、現在Hondaの交通教育センターで実施している実車訓練を、私どもと連携している自動車教習所でも可能とするため、その教習所にソフトとプログラムを導入していただき、近隣の病院やリハビリ施設と連携を取った普及拡大に着手しております。この取り組みは、青森県、沖縄県でスタートしました。

また、高齢化が進むにつれ、病院やデイケアサービスへのクルマによる送迎も増えており、こうした送迎時における利用者の安全安心の確保にも取り組んでおります。群馬県では昨年よりスタートした福祉サービス送迎運転者講習会の実技教育として、私どもが開発した「移送安全運転プログラム」を取り入れ、来年から実技講習がスタートします。

#### 「交通安全の普及拡大に向けた場と機会の創出」

##### ●地域に密着した販売会社の交通安全活動への支援

お客様や地域の皆様との接点である四輪販売会社(Honda Cars)との連携を強化し、各社の交通安全活動の支援を進めています。その1つとして、Honda Cars各社のスタッフがショールームへ来店いただいたお子様や、近隣にある幼稚園・保育園の園児にHondaの幼児向け交通安全教育プログラム「あやとりい ひよこ編」を活用した交通安全教室を行うなどの地域に密着した活動を始めています。

運転者向けには、Honda Carsのスタッフが携帯するタブレット端末へ納車時にお渡しする「セーフティライビングガイド」をインストールし、納車時以外でも適宜安全アドバイスができるようにしました。また、Honda のホームページ内にある動画による危険予測トレーニングもタブレット端末のコンテンツとして提供し、運転時だけでなく、歩行時や自転車利用時の安全についてもアドバイスが可能となりました。

##### ●他業種との連携による新たな普及活動

普及活動の場と機会の拡大に向け、私どもは他業種との連携も進めています。今年度は自転車専門店のイオンバイク(株)と連携し、イオンバイクの「場と機会」、私どもの「ノウハウ」という双方の強みを持ち寄り、子どもとその保護者を対象にした自転車教室をスタートいたしました。教室での実践を通じて、自転車教育のノウハウをイオンバイクのスタッフにお伝えし、今後、全国にある同社の店舗で自転車教育の拡大が期待できます。私どもも、同社の活動に継続して連携していこうと考えております。

##### ●ウェブサイトを使った交通安全情報の提供

インターネットによる情報発信をさらに有効なツールとして活用するため、ホームページを見直し、すぐにできる運転習慣をわかりやすく紹介するコンテンツを追加するなど、交通安全指導者だけでなく一般の皆様にもわかりやすい情報を増やしました。

また、交通安全について考えていただくためのきっかけづくりとして、交通安全をテーマとした動画やポスターを一般の皆様から募集し、コンテストを実施しています。昨年に引き続き、今年も多数のご応募をいただきました。

### 3 海外における 二輪事故低減の実現

海外における、お客様や地域社会への交通安全普及活動は、Hondaの現地法人・関係拠点が主体となって展開し、私どもはその支援をしています。今年度はHondaが台湾で大型二輪車の販売を始めるに伴い、事前に現地法人と販売店のインストラクターを養成する研修を日本で実施しました。販売開始以降も展開に応じた支援を継続しております。今後も、海外各国の現地の実態に合わせ、販売店などにお客様に適切な安全運転教育ができる支援を進めてまいります。

## 2016年に向けて

来年度は、私どもの3ヶ年計画最終年となりますので、先の3つの重点課題のもと、昨年、今年取り組んだ様々な活動の質を向上させるとともに、新たなテーマにも取り組み、活動を進化させてまいります。

関係各位のご協力に感謝申し上げますとともに、来年もご支援、ご協力のほど、よろしくごお願い申し上げます。

※各重点課題の活動内容の詳細につきましては、次ページ以降に記載しております。